

「能代市バスケの街づくり推進計画」の検証について

能代市バスケの街づくり推進計画の体系図

○街づくりのゴール 10年後の姿「バスケでみんなが元気になれる街」

(1)本物のバスケに触れられること

【方向・取組】

【10年後の目標】

		委員	平均値
①	<p>○バスケ資料の保存と活用を図る 能代工業高校バスケットボール部の歴史の保存を図るとともに、バスケの街の知名度を活かして、日本のバスケ資料の収集と活用を図ります。</p> <p>→ バスケ資料館を設置し、バスケの殿堂への展開を目指す</p>	重要度評価	4.29
		実現度評価	3.82
		達成・未達成	
		継続・除外	

- ・博物館的な施設ではなく、交流人口の増加に資するようなものにすべき
- ・歴史・資料収集、保存していくことは最重要だと思うが、展示している内容に偏りがあり限定されすぎているように感じられ公の資料館（観光スポット）としては魅力が低い。委員会でも外部から「保存」するもの「展示」するのを分けて事業を推進してはどうか。
- ・統合により能代工業高校がなくなってしまうが、ファンが多くいると思うので、ミュージアム等を活用して資料保存すべき。
- ・能代工業高校バスケ部の資料もまだまだたくさんあるため、更に大きな資料展示施設への更新を目指すべき（浄城西小の空き教室スペース等）
- ・バスケミュージアムは定期的な資料追加や入替、レイアウト変更の検討は必要かと思う。
- ・バスケットボールをやったことがある人なら必ず一度は訪れたいというような殿堂を作るとともに、それにふさわしいストーリーも作る必要がある。能代カップを甲子園のような存在へ昇華させる努力も必要となる。
- ・これまでの能代工業バスケ部の勝利の歴史を残すことはバスケの街能代として重要なプロセスである。
- ・バスケの資料展示会の開催、またバスケミュージアムの移転に伴い資料の整理が進んではいないが完全ではない、このまま作業を続けて、完了させるべきである。また、資料を誰もが気軽に見れる様な工夫、改良を行う必要がある
- ・推進委員会の中でも度々話をしていたのが資料館としながらもスペースが狭いため展示できずに眠っているものがあると言っていた。現在、移転をしてスペースの確保もできているため、充実した魅せられる館内にしていけたらと思う。
- ・バスケミュージアムの設置は行えたが、十分な活用と効果は見られない。さらなる機能強化と、魅力の整理、情報の発信による集客が必要。しっかりした戦略を立て中長期的なビジョンを持ち、企画運営をしていく必要がある。
- ・バスケミュージアムとは別に資料保存のための資料館を作る
- ・最重要課題。先人の偉業に対する敬意を形にして残し、伝えねばならない。物品の収集・集積はバスケミュージアムにて行われているが、これを読み解き解説する作業が必要。博物館や美術館における学芸員のような立場の人材を登用し、編纂を行っていくなどの対応が必要。
- ・たくさんの貴重な展示品を保有していることから、資料館的な役割のあるバスケ施設は必要と思います。バスケミュージアムはあるものの、展示方法やお客さんの誘導、SNSなどの活用が不十分と感じます。

②	<p>○能代カップの安定的な運営を図る 第4の全国大会として定着してきた能代カップ高校選抜バスケットボール大会の安定的な運営を図るため、運営に関わる団体やボランティアの確保に努めます。</p>	→ 能代カップの運営に関わる多くの団体やボランティアの定着を目指す	委員	平均値
			重要度評価	4.00
			実現度評価	3.40
			達成・未達成	
			継続・除外	

- ・能代カップの運営に関わることに価値を生み出せれば定着に近づけるのではないか（特典「〇年開催記念Tシャツ（スタッフT兼用）」プレゼント、大会ポスタープレゼント等）
- ・コロナ禍の中では、実施方法の検討が必要。
- ・能代カップの運営には更なるボランティアの確保が必要。
- ・深くかかわったことがないので、評価できない。
- ・ボランティアスタッフとなることが名誉となるような能代カップの存在価値を上げる努力を展開していく必要がある。
- ・年々減少しているボランティアの活動をもっと増やす必要がある。また、ボランティアの意義を広く市民に告知し、気軽にボランティアに参加できる状況をつくる
- ・運営について、関わっていないため評価ができませんが継続して頑張してほしい。
- ・これまでバスケの街づくりが進んでこなかった要因として、能代工業高校と能代カップを中心に考えてきたことだと思っている。能代工業高校が全国大会での結果を出せなくなったいま、能代カップ自体のあり方を再考する必要があるのではないか。統合校になるタイミングで能代カップ自体の廃止を含めた議論が必要だと考える。また、高校バスケを核に街づくりを考えること自体から脱却していかなければ、街づくりには繋がっていかないことは、この8年で明確になったと思っている。
- ・能代山本地区のミニバスチームも能代カップと同時に大会等を開催してはどうか
- ・バスケの街能代を定着させた基本となるイベント。全国各地で行われているカップ戦ともやはり一段異なる存在。高校生大会であることから、商業化を良しとしない声もあり、また商業化してもいうまよくとはかぎらない。大会開催については、底上げのための資金的な援助の強化と同時に、大会周辺での相乗効果を促すことも必要。
- ・協会や能代工業がゲームの質を確保し競技の部分運営し、屋台等については協会ではなく、別組織で行ってもらうのがいい。入場者を増やすということであれば、アカデミーや中学校、ミニバス等、高校の参加チームを減らし、様々な試合を組み入れて、誘客を図ることも一つではないか

③	<p>○プロバスケ等のゲーム等を誘致・支援する 秋田ノーザンハピネットのbjリーグをはじめ、JBLやWJBLのゲーム、車椅子バスケットボール日本代表チームの強化合宿等の誘致・支援を行います。</p>	→ 秋田ノーザンハピネットホームゲーム等を誘致・支援する	委員	平均値
			重要度評価	3.59
			実現度評価	3.47
			達成・未達成	
			継続・除外	

- ・誘致の効果を検証する必要がある
- ・誘致するべきかと思うが、コロナ禍においては、実施方法に検討が必要。
- ・プロや代表チームを多く誘致できればと思う。
- ・集客力はあるのでもっと活かしていければ。
- ・まだまだ目標達成に至っていないと感じる。すべての大会において「バスケの聖地能代」となるようなストーリー作りと各種大会の積極的な誘致や支援が必要。ただし、ハピネットは営利企業であるため、そこまで積極的に利用する必要はない。
- ・秋田ノーザンハピネットのリーグなどのゲームを誘致するメリットが感じられない
- ・プロバスケ等のゲーム、合宿誘致は、今後もより力を入れていくべき。空調設備等の環境整備も含め検討すべき課題も解決していく必要がある。
- ・能代山本地区のミニバスチームを対象としたクリニック、指導者向けの講習会等の開催
- ・実施側としてもバスケの街能代は活用できるはず。ハピネット、車椅子に続いて多くのゲームを誘致してほしい。

		委員	平均値	
④	○地元チームを応援・支援する 能代工業高校バスケットボール部や秋田ノーザンハピネッツをはじめとする地元チームについて、パブリックビューイングや自動販売機設置など、さまざまな形で応援・支援を行います。			
		→ 能代工業高校バスケットボール部や秋田ノーザンハピネッツ等の地元チームを応援・支援する		
			重要度評価	4.12
			実現度評価	3.12
			達成・未達成	
		継続・除外		
<ul style="list-style-type: none"> ・何をもって「応援」とするのか ・継続となった場合、科学技術高校がその対象となるのか。 ・能代工業バスケット部にお米以外の支援ができないか（おかずや捕食等） ・応援、支援している姿がよくわからない。 ・そもそも能代市民で応援している人が少ないように思われる。バスケアカデミーや3×3チームなどを強かにバックアップして活躍させることにより自然と市民が興味を持ち応援していく事につながっていくのではないかと考える。 ・能代工業高校バスケット部を応援・支援する為のパブリックビューイングや募金などのサポートは継続して行う意義はある ・パブリックビューイングには多くの市民が集まったとのことだったので継続して市民の意識を高めていけたらと思う。 <p>以前、工業のバスケット部や先生方にアドバイスをもらいながら作成したバスケノートがあったがそれらを活用して選手の目に見える形で応援できれば選手の後押しへも繋がると思う。（巡回バスをラッピングバスにするなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロチーム参加の育成チーム等を能代市に誘致または設置を検討してはどうか。1社1選手雇用するなど市民一丸で支え応援できるチームが、今後、能代がバスケのまちであり続けるためには必要ではないか。 ・毎度のパブリックビューイングを開催し、応援コミュニティを創っていくなど、地元のバスケ好きを育てていけないだろうか。 ・関わる団体および個人が少ないからか、バスケの試合があってもあまり盛り上がっている感じない。 				

⑤	○バスケクリニック等を開催する 能代工業高校バスケットボール部や秋田ノーザンハピネッツ等を行使として、ミニバスチームを中心にバスケクリニック等を開催します。	→ ミニバスチーム等へのバスケクリニック等を開催する	委員	平均値
			重要度評価	4.00
			実現度評価	3.65
			達成・未達成	
			継続・除外	

- これからの世代へのアプローチは必要不可欠と考える。
- 結果を出し、評価されバスケ人口が増えるのがベスト。結果が出るまで継続してほしい。
- U15クラブチームとの連携も可能だと思う。
- ミニバスのクリニックは他地域に比べて充実しているがどの程度役立っているか未知数。「能代」ならではのクリニックを計画すべきでは。
- 開催はしているので達成。継続していくことで重要度を上げていくべき。
- 現在はバスケアカデミーに注力すべきと考える。バスケアカデミーの見学会のイベントとしてクリニックを行えばよいのではないかと考える。
- 小学生向けに、バスケクリニックを開催するのは子供たちにもっとバスケを身近に感じてもらう、バスケを好きになってもらう為にも意義はある。この場合、講師は他県の強豪バスケチームや実際にスポーツ医療などを行っている医療チームなどを招聘して行うのがいいのではないか？
- たくさんの関係者が参加して地域にも経済効果もあるため継続して取り組んでほしい。
- アカデミー開設の実現は大変評価できる。これからの少子化時代の児童生徒たちの受け皿として期待が出来る。アカデミーの安定的運営に向け、人材や財政的な課題整理と継続的運営に向けた仕組みづくりが必要。
- クリニックをやるならできるだけ協力する人(能代山本地区の指導者)をスタッフとして開催する
- 選手育成は重要課題。教える側にも必要。ハピネッツによるクリニック以外にも、民間のスキルコーチを招くなど、多くの指導者を受け入れる取り組みはどうだろうか。近年は元プロ選手による教室も各地で開催されており、ゲストとして呼ぶシリーズがあっても良いのではないか。
- アカデミーに期待。

		委員	平均値
⑥	<p>○指導者等の育成を図る 専門機関等との連携を図りながら、定期的な講習会を開催するなど、指導者や審判員等の育成を図ります。</p> <p>→ 指導者や審判員等の定期的な講習会を開催する</p>	重要度評価	3.88
		実現度評価	2.57
		達成・未達成	
		継続・除外	

- ・講習会は必要。
- ・目的意識が薄い活動だと思う。
- ・ミニバスから高校までの一貫性のある指導が必要であり、アカデミーは研鑽の場としても有効であり、能代山本の関係者に広く知って頂きたい。
- ・必要性が現状わからない。
- ・現在はバスケアカデミーに注力すべきと考える。バスケアカデミーの見学会のイベントとしてクリニックを行えばよいのではないかと考える。
- ・携わっていないため評価ができないのですが、まずは指導者がいないと育成もできないと思うのでバスケの街としてつなげていくためにも継続して開催してほしい。
- ・能代市は工業高校バスケットボール部OBを中心に優秀な指導者を多数輩出している。人的資源のさらなる有効活用が望まれる。全国の指導者を対象に、スキルアップの為にプログラム構築や研修合宿などを、秋田大学教育学部等と連携して行ったらどうか。
- ・U12,U15の指導者向けのマンツーマン講習会を開催する
- ・関わる人のレベルアップに必要。JBAによる取り組みがあるので、そちらへの参加を促し支援するような仕組みを整えると良いのではないかと。
- ・アカデミー、もしくは体育協会が先導すべきだと思う
- ・「どういう指導者が必要か」「どういう審判員が必要か」等、長期的なビジョンを持つことでもっと明確になるのではないかと。ただ講習会等を開催すればいいということではないと思う。

(2) バスケットで誰でも集えること

【方向・取組】

【10年後の目標】

①	○バスケットファンやバスケット関係者が集える場を設ける 市内や県内のバスケットファンやバスケット関係者をはじめ、全国のバスケットファンやバスケット関係者が交流できるよう集える場を設けます。	委員	平均値
	→ バスケットファンやバスケット関係者が集える場を設置し、継続する	重要度評価	3.71
		実現度評価	2.76
		達成・未達成	
		継続・除外	

・どこへ行けばいいかわからない
 ・企画自体は悪くないが、コロナ禍において実施が難しいと思う。
 ・バスケットミュージアムにカフェ機能や交流できる空間があればいいのではないか。
 ・必要かもしれないが、市民が共に集えなければ意味がない。
 ・バスケットミュージアムの発展目標として、バスケット好きが自然と集まってバスケット談義をしたり、3×3を行ったりする施設、(1)①の聖地化、ストーリー作りの一端を担う場所として必要。
 ・バスケットミュージアムが誰でも気軽にバスケットに触れ、集える場所になっていない。改善が必要
 ・意見交換会も開催し、ファンにはバスケットミュージアムでハピネット選手の握手会なども開催されていたので今後も継続して行ってほしいと思う。
 ・街づくりの核となるような、バスケットの街のアイコンとしての施設が必要。バスケットミュージアムを機能強化し、実現させる必要がある。
 ・そういった場があるのは理想。全国、全世界的にそういった場があるのかの調査を行い、形を模索するところからスタートしないとイケない。場は物理的なものとは限らないのではないか？
 ・バスケットミュージアムが集える場所だと思う。内容の充実を求む。

		委員	平均値
②	<p>○バスケット関係の企画・イベントを行う バスケットの街づくり機運を高めるため、誰でも参加できるフリースロー競争やバスケット関係のコンテスト、交流会等の企画・イベントを行います。また、バスケット色になるような「バスケットの日」等の設定とイベント等の開催をめざします。</p> <p>バスケットに関する企画・イベントを行う「バスケットの日」等に合わせたイベント等の定着を目指す</p>	重要度評価	3.71
		実現度評価	2.71
		達成・未達成	
		継続・除外	

- ・「バスケットの日」というのを初めて知った
- ・競技に関連するイベントの他に、多ジャンルにバスケットを掛け合わせたイベントができればより幅広い層を集客できるのではないかと。（例：eスポーツ等）
- ・ニーズを把握し、対象を絞ることを検討してもよいのでは。
- ・市役所がプラスアルファで後押しする形で、各イベントとコラボしたり、コラボしやすい環境にしてみるのはいかがでしょうか。
- ・重要だとは思いますが、形が見えていない。検討が必要
- ・市民へのバスケット定着を目指すためにも、チャレンジデーにドリブルやフリースローを行うなど、行政も積極的に関与してバスケットの推進をする必要がある。
- ・そもそもバスケットの日に合わせてイベントを行う必要があるのか？検証が必要である。それ以外ののしるカップ等イベントがある中で、バスケットの日にあわせたイベントを行うより、のしるカップなどの既存のイベントに集中し、盛り上げることがメリットは大きいのではないかとと思う
- ・バスケットに関するイベントの実施はしてきており、企画も試行錯誤して地元の方をまきこんだ内容もありよかった。定着させることが今後の課題になってくると思う。
- ・バスケットに関する企画イベントを行うというより、総合体育館やアリナスで各種開催される大会等に合わせバスケットに関する企画イベントを実施するに変更したらどうか。また既存イベントにバスケットに関する企画イベントを実施するという考えも必要。課題としては継続的にイベントを企画運営していく実施主体をどのように構築するか。（人材、財政に課題）バスケットの日は全国的にも定着しておらず、取り組む必要はないと考える。
- ・イベントを行いたい主催者に対して支援する枠組み・制度があると良い。バスケットの日については「能代では続けている」姿勢が重要。
- ・バスケットの日が定着していないので、バスケットの日を周知させるには相当な労力がかかると思う。

③	○バスケの各種大会等を開催する。 バスケットボール競技の底辺拡大や生涯スポーツ、チーム同士の交流の観点から、各種大会等を開催します。	バスケットボール競技の各種大会等を開催する	委員	平均値
			重要度評価	4.19
			実現度評価	2.87
			達成・未達成	
			継続・除外	

- ・「能代カップ」以外知らない。
- ・各カテゴリーごとに盛り上がる工夫が必要。
- ・協会との協力関係のもと、大会運営をしていくことで、発展的なものになっていくと考える。
- ・3×3の市民リーグを開設し、バスケの普及・浸透を図り、最終的には市民リーグからプロチームが誕生すれば理想的であるとする。
- ・のしろカップのほか、東北の強豪チームやアジアの強豪チームを招聘して交流試合を企画する
- ・各カテゴリーごとの大会の開催と、大会に対する支援の強化を行う必要がある。特にアンダーカテゴリーは少子化の影響で選手およびチームの減少が考えられる。選手の確保等、考えられる課題を早期に抽出し対策していく必要がある。新設されるイオン新能代ショッピングモールの催事場にて3×3のリーグ戦開催を働きかける。
- ・県内外からのチームをできるだけ多く呼んで大会を開催する
- ・生涯スポーツの面を支援するため、各種大会の誘致、優遇策が必要。
- ・バスケの大会はあると認識しているが、生涯スポーツ、交流の観点からというのは把握できていないです。

④	○大会運営ボランティア等の確保を図る 大会運営に関わるスタッフ等の不足を解消するため、ボランティア等が参加しやすい環境づくりに努めるなど、ボランティア等の確保を図ります。	大会運営ボランティア等が参加しやすい環境づくりを行う	委員	平均値
			重要度評価	3.75
			実現度評価	2.60
			達成・未達成	
			継続・除外	

- ・「参加しやすい」の共通認識がない。
- ・能代カップのような「公的であり教育」イベントであれば、ボランティアという形で「支援」という流れがしっくりくる。その他大会の種類によっては人材確保をボランティアに限定せず、イベント運営会社等に委託することも検討してもよいのではないのでしょうか。
- ・市民への周知をしっかりとすれば可能。
- ・ボランティアを集めるためにリピーターになってもらえる工夫、環境づくりを模索する必要がある。
- ・上記③をやるなら必要。
- ・バスケがより市民に親しまれるスポーツとなれば自然とボランティアスタッフも増えると思われるため継続は不要と考える。
- ・ボランティアについては、育成講座や中学生、高校生以上から参加できる仕組みをつくる必要がある。
- ・ボランティアに対する特典制度や、有償ボランティアも検討していく必要がある。
- ・有償ボランティアとして集めやすいような仕組みは作れないだろうか。資金支援、グッズの提供など。
- ・ボランティアがどのくらいいるのか把握できていないです。すいません。
- ・ボランティアが参加できる仕組みづくり、ターゲットを明確にすることがいいのでは。就業体験やインターンシップ等と組みあわせることができればいいと思う。

		委員	平均値
⑤	<p>○体育施設等の活用を図る バスケットボール競技の練習ができる環境を確保するため、体育施設や学校施設の活用を図ります。また、学校統合等による既存施設の活用を含め、専用コート設置等を検討します。</p>		
		重要度評価	4.24
		実現度評価	3.09
		達成・未達成	
		継続・除外	
<p>• 総合体育館脇の駐車場のコートはそれなのか？使われなくなった学校も多くなってきている。見直すことが必要ではないか。</p> <p>• 場所を求めている個人・団体も多いと思う。</p> <p>• 市内の小中学校体育館の環境づくりが必要。正規のコートを整備する必要がある。借りやすくする環境づくりも必要ではないか。</p> <p>• 検討の必要性は高い。</p> <p>• 現状でもそれなりに施設は揃っているが、バスケの聖地化を目指すうえでバスケに特化した専用コートは必要と考える。</p> <p>• 閉校した学校を活用すべき</p> <p>• JR東能代駅徒歩3分の立地である、東中跡地に5,000収容のバスケ専用アリーナを核としたバスケに特化した複合施設を建築。ハピネッツのメインアリーナとして活用。JRと連携し大会時はハピネッツ電車を走らせる。能代工業のコネクションを活かしナイキのアウトレットショップも誘致する。バスケミュージアム等やコンベンションホール等の機能も付加する。東能代駅周辺をバスケの街のしろの新たな拠点地域として再開発を行っていく。</p> <p>• 総合体育館・アリーナをもっと利用しやすいようにしていく。</p> <p>• バスケットボールの推進のための、料金的な優遇はあって良いと思う。</p>			

(3) バスケットで地域が潤えること

【方向・取組】

【10年後の目標】

①	<p>○合宿や大会の誘致を図る 能代山本スポーツリゾートセンター「アリナス」、能代市総合体育館及び周辺エリアの魅力ある環境づくりを行いながら、合宿や大会の誘致を図ります。 あわせて、交流試合等をコーディネートする仕組みづくりをめざします。</p>	<p>合宿や大会を誘致する 交流試合等をコーディネートする仕組みの定着を目指す</p>	委員	平均値
			重要度評価	4.35
			実現度評価	2.87
			達成・未達成	
			継続・除外	
<ul style="list-style-type: none"> ・「仕組み」ができていないのかわからない。受皿を周知する必要がさらに必要。 ・コロナ禍においては、宿泊施設との連携も必要。 ・能代市体育協会と合宿誘致や交流試合をコーディネートしていくのが最良となるのではないか。 ・(1)③に同じ より積極的な誘致・サポートが必要ではないか。 ・合宿の誘致は年々増えてはいるが、受け入れ自治体のさらなる工夫と努力が必要。また、能代だけにとどまらず、能代山本地域をその対象として、バスケットを行う環境の整備だけでなく、食、静かな自然の環境をもっとアピールすべき ・アカデミーの 카테고리 拡充を行い、平日日中のバスケットボールでの施設利用を促進する。アカデミー主催で各カテゴリーの大会を運営実施できる体制の構築を目指す。またアリナスがアカデミーの運営母体となるなど、アカデミースタッフを雇用出来る形態を検討していく。 ・サマーキャンプや大学チームの合宿など、増えてきているが、さらに支援があれば増えていくはず。 ・独自のコーディネーター育成が必要なのでは？ ・ホテル大原や能代市内の空き家を下宿や短期的な宿泊などに使えるようにするといいのでは。能代工業高校や能代松陽高校も含め下宿等に使える施設を増やすことで、合宿等にも気軽に使えるようになるのでは。 				

②	○企画・イベント等にバスケットを組み入れ誘客を図る 各種企画・イベント等にバスケットの要素を組み入れることで、能代の独自性を高め、誘客を図ります。	委員	平均値
	→ 各種企画・イベント等にバスケットの要素を組み入れる	重要度評価	3.65
		実現度評価	2.65
		達成・未達成	
		継続・除外	

- ・当委員会のみならず、他の団体・特に観光分野との連携が不可欠。
- ・バスケットの街をPRする目的で最も近道だと思いますが、そのためにいまの「コアなバスケットの街の魅力」を「万人受けするバスケットの街の魅力」に変換することが最優先。順番を間違えると「実施したが効果がなかった」という結果で終わりそうで勿体ない。
- ・市のイベントで横の連携が図れれば良いと思います。
- ・市役所がプラスアルファで後押しする形で、各イベントとコラボしたり、コラボできやすい環境にしてみるのはいかがでしょうか。
- ・継続し、力を入れていったほうが良いと思う。
- ・他の部分に注力しなければならないと考えるため不要。
- ・簡単に設置できるシュートコーナーを各イベントで設置して子どもだけでなく大人も体験していくため、家族で参加できるイベントに組み入れていけたら誘客も図れると思う。
- ・フリースローチャレンジ等、競技者以外を対象にした取り組みや考え方が必要。またプロ選手を誘致し技術披露して頂くような、ショー的要素をもった企画も有効ではないか（例えば、能代七夕天空の不夜城参加するハピネッツ選手が、運行前にストリートでダンクや3ポイントを見せる等）購入した3×3のコートを活用し、複数の既存イベントの会場で、3×3のリーグ戦を実施してみてはどうか
- ・何にでもバスケットをくっつける方法が確立されていない、またチャレンジしても成果が出ていない感じがある。そもそも必要があるだろうか？
- ・商店街やまちづくりイベントと共同企画はありだと思う。
- ・3×3のチームを立ち上げようとしていた人などの協力を得ながら、イベントに組み込んでいければいいのではないか。

		委員	平均値
③	<p>○バスケット関連のグッズや食を開発・販売する バスケットの街をPRできるようバスケット関連の多様な グッズや食を開発し、大会やイベント等に合わせた 販売やネット販売も行い、そのPRに努めます。</p> <p>→ バスケット関連のグッズや食の能代名物としての 定着をめざす</p>	重要度評価	3.65
		実現度評価	2.71
		達成・未達成	
		継続・除外	

- ・現在何があるかもわからない。誰にPRし、誰に買ってもらうのか再検討の必要がある。
- ・商品を作る仕組みよりも売れるしぐみを先に作らないと事業者はうまみを感じない。
- ・継続して、名物になるようなものができればいい。
- ・「NOSHIRO」が印字されているTシャツだけでも、県外の人には魅力的に見える。色々なデザイン等で販売に向けるのもいいのではないか。
- ・地元のお店で取り組んでいるのでコラボとしてはいいかもしれない。
- ・ある程度はグッズや菓子なども作られており、現状では十分と考える。今後バスケットが盛り上がれば自然発生的にグッズなどは民間企業が企画すると思われるため不要。
- ・なかなか商品開発へと進められずにきた。大会やイベントに合わせた取り組みを今後、分科会の中で一つでも開発できればと思う。
- ・美郷町がモンベルと提携しモンベルショップを開設したように、能代もナイキと提携しナイキのアウトレットショップを開設

また工業団地にナイキの用品の工場を誘致するなど、企業と連携した取り組みが必要。ハピネットのグッズ専門店をバスケットミュージアムのミュージアムショップに設置する。

また能代工業出身のプロ選手のグッズも合わせて取り扱う。

- ・あれば楽しい。これは、バスケットの街が盛り上がれば自然に出てくるものだと考えています。
- ・今の運営体制での開発販売は難しいと思う。
- ・統一したブランディングと誰でも使えて「核」となるものが必要ではないか。「NOSHIRO」は能代工業だけではなく、能代市内の全チームが使えるもので、全チームが使えるようになるといいのでは。

		委員	平均値
		重要度評価	3.35
④ 〇グッズ等をライセンス管理する仕組みづくりを進める バスケット関連グッズ等に統一したキャラクターやロゴマークを用いるなど、ライセンス管理の仕組みづくりをめざすとともに、商品の収益等をバスケットの街づくりに還元する手法についても検討します。		実現度評価	2.44
		達成・未達成	
		継続・除外	
→ グッズ等のライセンス管理で商品の収益等をバスケットの街づくりに還元することを目指す			
<ul style="list-style-type: none"> • 収益の還元は必要だが、何を作って、誰が、誰に、どこで売ってもらうのか整理する必要性がある。 • ③同様にロゴマーク使用の価値を作ることが優先なのではないか。 • 「能代工業」のブランド的な商標権が得られるといいかも。 • 「NOSHIRO」が印字されているTシャツだけでも、県外の人には魅力的に見える。色々なデザイン等で販売に向けるのもいいのではないか。 • 現状では不要と考える。今後バスケットが盛り上がりを見せた際に検討すれば良いので現状では不要。 • ライセンス料を払ってまで、バスケットの街を利用するメリットが感じられない。 • これは、正直なところ失敗感が強いです。当初はくまモンのような活用を目指していたはず。刷新しても良い。 • 今の運営体制でライセンス管理は難しいと思う。 • 統一したブランディングと誰でも使えて「核」となるものが必要ではないか。「NOSHIRO」は能代工業だけではなく、能代市内の全チームが使えるもので、全チームが使えるようになるといいのでは。 			

(4) バスケが街なかで感じられること

【方向・取組】

【10年後の目標】

		委員	平均値
①	○バスケに関する拠点を設け情報発信を図る バスケに関する拠点を設け、さまざまな情報の集約を行いながら、電子媒体を中心にさまざまな手法で情報の発信を図ります。		
		→ バスケに関する恒常的な拠点を確立し、情報の発信を行う	
		重要度評価	4.35
		実現度評価	3.35
		達成・未達成	
		継続・除外	
<ul style="list-style-type: none"> ・バスケミュージアムの移転後できているように思う。 ・バスケミュージアムがセンター的な役割を果たしてほしい。 ・能代工業高校バスケ部の資料もまだまだたくさんあるため、更に大きな資料展示施設への更新を目指すべき（湊城西小の空き教室スペース等） ・バスケミュージアムの発展目標として、バスケ好きが自然と集まってバスケ談義をしたり、3×3を行ったりする施設、(1)①の聖地化、ストーリー作りの一端を担う場所として必要。 ・情報発信するための魅力の整理が必要。電子媒体の構築に対し、あきた白神ツーリズムの様にコンサル含め大手へ依頼することも考える必要がある。施設の作り方は、増田のまんが美術館が参考になる。委員会で視察に行き共有したらどうか。 ・バスケミュージアムが拠点となるようにしてほしい。 ・バスケミュージアムからの情報発信について、ジャンルを分ける・絞るなどの工夫が必要。高校バスケの全国レベルのものに絞るなど。また発信者の労力についてケアされていない気がする。 ・バスケミュージアムが拠点に当たる。今より内容の充実を求む。 			

		委員	平均値
②	<p>○構造物等へバスケットを組み入れる 構造物へバスケットのデザインなどを組み入れること で、街なかでのバスケットの雰囲気を広げます。</p> <p>→ 構造物等へのバスケットの組み入れでバスケット色の街の景観をめざす</p>	重要度評価	3.71
		実現度評価	3.18
		達成・未達成	
		継続・除外	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道の街灯しか思いつかない。一色には違和感がある。 ・ 街灯等は好評だと聞いている。 ・ 継続したほうがよい。 ・ 現状で必要十分。 ・ 柳町にある商店の壁を利用したバスケットアートはよかった。ただ、壁のうえのほうに描かれていたので壁をバックに写真を撮れるようにできればと思った。 ・ 街づくりの観点と違うような気がする。バスケット色の街の景観のイメージを提示してもらいたい。プレーヤーが集う街になるために必要な要素は、プレーする場所、用品を買う場所、文化に触れられる場所、パブリックビュー出来る場所等ではないか。このような施設が集まれば、おのずとバスケット色の街の景観は整っていくのではないか ・ 街灯、マンホール、リング設置等を行う。 ・ 街灯など、もっと増やしても良い。 ・ 能代には木都、宇宙、バスケットなど様々なコンテンツがあるので、バスケット色の街の景観づくりには違和感があります。 	

③	○バスケロードへの展開を図る 試行的に実施した「バスケ名言ストリート」をさらに発展させ、バスケロードとなるよう展開を図ります。また、渋谷のバスケットボールストリートとの連携をめざします。	→ バスケロードの定着を目指す	委員	平均値
			重要度評価	3.00
			実現度評価	1.94
			達成・未達成	
			継続・除外	

- よく理解できない。
- 場所の工夫が必要。
- 他の部分に注力する必要がある、現時点では不要と考える。
- バスケロードを作ったからといって、バスケの街のしろがもりあがるとは思えない。のしろ市民へのメリットが感じられない
- 関係者の間でしかバスケロードが定着していない。
- 能代駅～畠町～柳町～能代工業をバスケロードとして設定しても、地域住民や地域事業者が乗ってこない。観光客がJR能代駅から商店街を歩く前提の計画だが、能代市への観光客の大多数は車であり、仮説自体が間違っていた。例えば、東中跡地にバスケ複合施設等を建築するようなことがあれば、JR東能代駅から複合施設までの区間をバスケロードとして整備してみるなど、人の往来が見込める前提で計画する必要がある。
- 駅前～能代工業高校のバスケロードは定着しなかった。別の形で再定義する、
- 他の観光資源を取り込んだ、観光案内ルートになっても良いのでは。
- バスケロードの存在を知りませんでした。渋谷のバスケットボールストリートの状況を考えても連携ということに対するメリットも無いと思います。
- 駅からという考えと車で来能するひとと分けて考えてもいいのでは。工業の歴史をつなぐために、道のところどころに歴代の能代カップの選手や各能代工業の年代の碑を各所に設置し、県外から来た人へPRしてはどうか。

④	○ストリートバスケの環境整備を図る 屋外に設置しているリングの活用を図りながら、イベント開催を含め、街なかでストリートバスケができる環境の整備をめざします。	→ 屋外リングの活用を図りながら、街なかでストリートバスケができる環境の整備を目指す	委員	平均値
			重要度評価	3.76
			実現度評価	2.63
			達成・未達成	
			継続・除外	

- 屋外リングを誰が管理するのか。他部署との連携も視野に入れる必要がある。
- ゆくゆくはマップ的なものができるといいかも
- 20年以上昔の方が屋外の環境が整っていたと思う。駅前や市役所駐車場脇に場所を整備していくべきではないか。
- あちこちにあるがポロポロ
- 3×3普及の為に可搬式のコート積極的に活用する必要があると考える。
- 街なかでバスケができる街＝バスケで活性化する街⇒ではない
- 地域特性的に通年使用可能な屋内施設への設置が望ましい。人が多数集まる商業施設等への設置を検討すべき。屋外リンクは中心市街地の既存コート（市民プール隣地）の活用を検討する必要がある。以前おなごりフェスティバルの日中イベントで行ったような、歩行者天国でのストリートバスケも検討する。
- これは場所と資金の問題だけだと思います。誰がやるかです。
- 街なかでのストリートバスケは能代ならではの、そして中心地の活性化に一役買う事業だと思うが、今現在どこにも無い？
- 屋外リングは市内にあると思うが、どこにあるかを市がPRしない。マップや何かを作って、リングのある公園がどこにあるかをもっと市民向けに出すべき。

(1)～(4) 共通

【方向・取組】

【10年後の目標】

①	<p>○街づくり主体形成のための支援制度を設ける バスケットの街づくりへ広く民間等の参画を図るため、実施主体形成のための支援制度を設けます。また、募金等を含め、バスケットの街づくりに関する基金の設置を検討します。</p>	委員	平均値
	→ 募金等を含めた支援制度の確立をめざす	重要度評価	4.13
		実現度評価	2.33
		達成・未達成	
		継続・除外	

- 資金の流れ、還流の仕組みを共有する必要がある。
- 募金等に頼らず自ら資金を生むことはできないか。（バスケットミュージアムで委託販売を行い、販売手数料を資金とする…等）
- 各方面から支援は必要。
- 都度検討していければと思う。
- 支援制度は重要だがバスケットが普及しているとは言えない現状ではなかなか難しいとも思うが、支援制度は継続していく必要があると考える。
- バスケットの街づくり自体が漠然としており、市民の参画のイメージがつかめないのではないか。例えばバスケットの街の核となるものとして、チームなり施設なりがあれば、それを中心に参画のイメージを作れるのではないか
- 今のバスケットの街づくりに参加するには、主体としては負担が大きく、見返りもさほど得られない感じがある。チャレンジ事業補助金よりも大きな、長期的な事業が可能になるような枠組みを検討すべき段階ではないか。
- 募金の存在を知らませんでした。市の補助事業は10/10補助なのでとても魅力的ですがその存在の認知度が薄いと感じます。